

2026(令和8)年度 前期 法華コモンズ講座 4月より開講

開設講座一覧と受講の手引き

《 開設講座 》

- 一日集中講座 「菩提と覚—仏教における覚醒の概念の歴史—」 全1回【対面&実況】
開催日時：**4月11日（土）** 午後1時30分～5時30分（4時間） 講師：大竹 晋
- 一日集中講座 「新・学問のすすめ 研究者失格！—『見るなの禁』を見た男—」
開催日時：**5月9日（土）** 午後1時30分～5時30分（4時間） 全1回【対面&実況】
講師：磯前順一
- 一日集中講座 「本覚思想の研究史と批判仏教論争」
開催日時：**8月1日（土）** 午後1時30分～5時30分（4時間） 全1回【対面&実況】
講師：石井公成
- シリーズ講座 《法華仏教講座》 全6回 【対面&実況】
開講時間：土曜日 午後3時30分～5時30分
第1回 **4月25日** 「性と仏教」 講師：上杉清文
第2回 **5月16日** 「法華教学における顕本論と化導論（1）」 講師：花野充道
第3回 **6月13日** 「八品門流門祖日隆の教団成立について」 講師：小西日遼
第4回 **7月 4日** 「日蓮の世界認識とその意義」 講師：丹治正弘
第5回 **8月29日** 「日蓮・鎌倉幕府・朝廷」 講師：石附敏幸
第6回 **9月 5日** 「現代思想としての日蓮—上原專祿の日蓮論—」 講師：澁澤光紀
- 連続講座 「『法華経』『法華文句』講義」 全6回【対面&実況】 講師：菅野博史
開講時間：月曜日 午後6時30分～8時30分
開催日：第1回 **4月27日** / 第2回 **5月25日** / 第3回 **6月29日**
第4回 **7月27日** / 第5回 **8月24日** / 第6回 **9月28日**
※受講申込は、裏表紙（12頁）の「受講申込みについて」よりお願いいたします

法華コモンズ仏教学林事務局

「再歴史化」の知的な拠点を創りましょう！ 理事長 西山 茂

戦前期に生きた田中智学は、日蓮仏教を近代日本に「再歴史化」（蘇生）するために、「祖道復古」と「国体開顕」および「宗門革命」（宗門の維新）の旗を掲げて日蓮主義の運動を主導し、複数の教学講習会を開いて、以後の日蓮仏教諸派の僧俗に多くの影響を与えました。

今回、私たちが11年間も続いた本化ネットワーク研究会を閉じて法華コモンズ仏教学林（門流や会派を超えた法華仏教の学び舎）を起ち上げたのも、法華仏教（日蓮仏教）を現代日本に「再歴史化」するためにはかなりません。



「再歴史化」の意味を深く考えるとすれば、それは普遍的な宗教真理は特殊的な歴史状況のなかに繰り返し「再歴史化」されなければ人々への説得力を失ってしまう、ということでしょう。

現代社会は智学の時代と違ってより複雑化しているだけでなく、教学や遺文の研究レベルも上がり、それだけ私たちが学ばなければならないことが多くなっています。こうしたことは、門流や会派が単独で法器養成等に取り組むことを非常に難しくしているといえます。そして、このような事態も、法華コモンズ仏教学林の誕生を促す要因となっているといえるでしょう。幸い、法華コモンズ仏教学林には、多彩で優れた講師陣が揃っています。

皆さま、この際、どうか法華コモンズ仏教学林の受講生となり、門流や会派の中垣を超えて法華仏教（日蓮仏教）の共通の智を学び、ともに仏国土づくりの聖業に邁進しようではありませんか。

皆様のご参加をお待ちしております！

学林長 布施 義高

日蓮仏教の「再歴史化」を理念として、斯界に新たな地平を切り開いた、東洋大学名誉教授・西山茂先生主宰の本化ネットワーク研究会。また、日蓮聖人の実像や、壮大なスケールの思想の全体像を浮き彫りにすべく、日蓮門下が一丸となって編集され、平成27年全五巻の刊行完結をみた『シリーズ日蓮』（春秋社）。こうした画期的な成果を受け継ぎ、平成28年4月、西山茂先生を理事長、シリーズ日蓮刊行会会長・佐古弘文先生（同年11月御遷化）を副理事長に仰ぎ、法華コモンズ仏教学林が始動いたしました。



これから本格的に法華経や日蓮聖人を学びたい方の登竜門として、また、各教団が課題とする人材育成、次代の日蓮門下全体の隆盛へ向けての基礎作りの場として、さらには、より高みを目指す研究者の研鑽の場として、多様なニーズを満たせるよう、スタッフ一同、鋭意努力して参ります。

法華コモンズの主役は、これから参加される皆様お一人おひとりです。仏教界全体に、時代を先導し、光明を灯す力が求められている昨今、日蓮仏教（法華仏教）の立場から、世の期待に大いに応えていこうではありませんか。

法華コモンズ仏教学林 スタッフ紹介

【運営スタッフ】

○理事長 西山 茂
○学林長 布施義高
○事務担当 濵澤光紀
竹内敬雅
○財務担当 竹内敬雅
○プログ担当 林 明彦
○X (旧Twitter) 担当 武川清明
○ビデオ班 竹内敬雅／神蔵寿觀／林 明彦
○総務担当 稲田隆広／谷口智／山名隆年／波田地克利

【教学委員】

○上杉清文
○花野充道
○菅野博史
○寺尾英智
○三輪是法

【講座担当】

○大竹先生一日講座 竹内敬雅／佐古弘純
○磯前先生一日講座 濵澤光紀／武川清明
○石井先生一日講座 神蔵寿觀／布施義高
○法華仏教講座 西山明仁／布施義高
○菅野先生講座 松永良樹／濵澤光紀
○配信シフト担当 西山昂希

【 講座会場 】

福聚山 常円寺 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎ 03 (3371) 1797

祖師堂 地階ホール (または日蓮仏教研究所の一階「学室」)

※講義は、【対面&実況】(会場での「対面講義」と「zoomオンライン実況」)、または【オンライン実況講義】で開講しています。講義の終了後には、「講義ビデオ配信(一か月間有効)」を行っていますので、日程が合わない方や遠方の方も「ビデオ受講」をすることが出来ます。

※諸状況で講義が延期・中止になった場合は、「受講料を返却」しております。

《会場への交通》

- JR線・小田急線・京王線・丸ノ内線を利用の場合
⇒ 新宿駅西口改札より徒歩6分
- 西武新宿線を利用の場合
⇒ 西武新宿駅正面口改札より徒歩6分
- 大江戸線を利用の場合
⇒ 新宿西口駅「D5出口」より徒歩3分
- 丸ノ内線を利用の場合
⇒ 西新宿駅1番出口より徒歩4分



菩提と覚－仏教における覚醒の概念の歴史－

講師：大竹 晋 先生

開講日 4月11日(土) 開講：午後1時30分～5時30分(4時間)

【講義概要】

仏教における覚醒は菩提と呼ばれ、中国においてはそれが覚と意訳されました。本講義において、本講師はまずインド仏教における菩提の概念の歴史をたどり、さらに中国仏教、日本仏教における覚の概念の歴史をたどっていきます。テキストについてはプリントを配布します。

扱われることがらの例：

- ・菩提とその類義語との関係
- ・菩提と智、真如、法身との関係
- ・覚の訳例
- ・本覚思想

【会場】常円寺祖師堂地階ホール 新宿区西新宿7-12-5

【講師略歴】

大竹晋（おおたけ すすむ）：1974年岐阜県生まれ。筑波大学卒業。同大学院哲学・思想研究科修了。博士（文学）。現在、宗教評論家、仏典翻訳家。専攻は大乗仏教。近年の著書に『「悟り体験」を読む』（新潮選書）、『悟りと葬式』（筑摩選書）、『仏のなりかた』『菩薩は女性を愛せるか』（春秋社）、『大乗仏教と小乗蔑視』（国書刊行会）など。

【受講料】 3,000円（オンラインも同額）

新・学問のすすめ 研究者失格！ －『見るなの禁』を見た男－

講師：磯前 順一 先生

開講日 5月9日(土) 開講：午後1時30分～5時30分(4時間)

【講義概要】

学問と研究は、どこが違うのでしょうか。研究が技術であるとすれば、学問とは、「私」ではない誰かのために、言葉を通して魂を開こうとする営みです。

今年三月、六十五歳で定年を迎えた私は、これまで、秘蔵されてきた資料を社会に公開し、被災地や被差別部落に赴いて、生きることの困難に直面する人びとの声に耳を傾けてきました。しかし、そうした困難を言葉にすることは、常に社会からの抵抗を伴う行為でもありました。社会が見たくないもの、なかっただことにしようとするものを語るからです。

深層心理学者の河合隼雄や北山修は、社会が目を背けるものを「見るなの禁」と呼びました。本講義では、私自身の人生と研究を振り返りながら、何が日本社会において「見ることを禁じられてきたのか」を考えます。暗がりに目を凝らし、語る勇気を持つとはどういうことか。ともに考えてみたいと思います。

【会 場】常円寺祖師堂地階ホール 新宿区西新宿 7-12-5

【講師略歴】

磯前順一（いそまえ じゅんいち）：1961年、水戸生まれ。東京大学大学院人文科学研究科宗教学専攻博士課程中退。博士（文学）。国際日本文化研究センター名誉教授。主な著書に『近代日本の宗教言説とその系譜』（岩波書店）、『昭和・平成精神史』（講談社選書メチエ）、『石母田正』（ミネルヴァ書房）、『居場所のなさを旅しよう』（世界思想社）、『生者のざわめき』（木立の文庫）、『新・学問のすすめ 研究者失格！』（白水社）、『京都 祈りと差別の千二百年』（亜紀書房）。

【受講料】 3,000円（オンラインも同額）

法華コモンズ仏教学林 2026度 前期 一日集中講座 全1回 対面&実況

本覚思想の研究史と批判仏教論争

講師：石井 公成 先生

開講日 **8月1日(土)** 開講：午後1時30分～5時30分（4時間）

【講義概要】

島地大等が1926年に「日本古天台研究の必要を論ず」を発表し、鎌倉仏教の基盤であるとしてその研究が重要であることを論じて以来、本覚思想については主に評価する方向で研究が進められてきた。さらに、インド仏教の如来蔵思想を大成した『宝性論』の梵文テキストが刊行されたことにより、欧米と日本で如来蔵思想研究が大幅に進んだ。本覚の語が見える『起信論』の中国撰述説をめぐる論争も盛んになった。この状況を一変させたのが、1986年に袴谷憲昭が本覚思想を、また松本史朗が如来蔵思想を仏教でないと断言して始まった批判仏教の動きだ。

二人はやがて決別するに至ったが、この二人の著書や論文の衝撃は大きく、賛成者や反対者、あるいは無視した者たちに大きな影響を与えた。批判仏教と言われたこの動きは次第におさまったが、以後、仏性を説いた『涅槃経』の研究が大幅に進み、また本覚思想を受容したのか批判したのかで論争となつた道元

に関する研究も進んだ。

本講義では、背景となった社会状況も考慮しながら、本覚思想研究史、本覚思想・如来藏思想批判の意義と問題点、そうした批判以後の研究状況について検討したい。

【会 場】常円寺祖師堂地階ホール 新宿区西新宿 7-12-5

【講師略歴】

石井公成（いしい こうせい）：1950年東京都生まれ。早稲田大学第一文学部東洋哲学専修卒業。同大学院文学研究科単位取得退学。博士（文学）。駒澤大学名誉教授。専門はアジア諸国の仏教とその周辺文化。主著に『華厳思想の形成』、『聖徳太子—実像と伝説の間』、『くものまね』の歴史—仏教・笑い・芸能』、『東アジア仏教史』、『恋する仏教—アジア諸国の文学を育てた教え—』などがある。「聖徳太子研究の最前線」ブログを運営中。

【受講料】 3,000円（オンラインも同額）

法華コモンズ仏教学林 2026年度 前期 全6回 **対面&実況**

シリーズ講座「法華仏教講座」

【日 時】全6回 原則土曜日の午後3時30分～5時30分（2026年4月～9月の6回）

【会 場】新宿常円寺祖師堂地階ホール 新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎ 03（3371）1797

※対面講義が不可の場合は、オンラインのみ（後に動画配信）で開催する予定

【受講料】1期6回分 12,000円 ※1回のみの受講料は2,000円

第1回 性と仏教

講師：上杉清文 先生

【日 時】 2026年 **4月25日（土）** 午後3時30分～5時30分

【講義概要】

これらの呪詛、これらの冒流、これらの嘆き、これらの法悦、叫び、涙、これらの讃歌は、無数の迷宮を通って次々にひびく一つの木霊。 （ボードレール 阿部良雄訳『惡の華』より）

〈性〉という語の第一義は、生まれつきの傾向、天から与えられた本質という意味で、漢音でセイ、吳音でショウ、和訓でサガ、一語でセックスやセクシュアリティの意味で使われるようになったのは一九一〇年頃で、ここから「性欲の時代」が始まった、とされます。

さて、わたしが話題にしたいのは「性欲の時代」以前の〈性〉と〈仏教〉です。したがって、セックスの全領域を指す〈性〉という語はむろんのこと、〈性欲〉〈性交〉〈性器〉といった語もなく、〈性欲〉に相当する語は色情、淫情、淫欲、情欲、春情などで、〈性交〉は交合、交接、交媾などと表現されていました。そんな時代の〈仏教〉でわたしが関心を持っているのが、例えば、女犯と男色あり、真言立川流と天台玄旨帰命壇であります。

これだけでも大難事なのに、増穂残口（ますほざんこう）の紹介も、と考えています。とはいえ、残口については、『近世色道論』（日本思想体系 60）を一読下されば、わたしの出る幕など…… 合掌。

【講師略歴】

上杉清文（うえすぎ きよふみ）：1946 年静岡県生まれ。富士市本國寺住職、劇作家、福神研究所所長。法華コモンズ仏教学林教学委員。著書に『うぐいす仏法帖』（太田出版）、共編著に『シリーズ日蓮』第五巻「現代社会と日蓮」（春秋社）、他。2015 年 8 月より JK S47（日本祈祷団四十七士）を福島泰樹や秋山道男らと立ち上げて、超現実的・演劇的・宗教的なアングラ思想運動を創出する活動を継続中。

第2回 法華教学における顕本論と化導論（1） 講師：花野充道 先生

【日 時】 2026年 5月16日（土） 午後3時30分～5時30分

【講義概要】

法華経の方便品に説かれる会三帰一の教説や、寿量品に説かれる久遠成道の教説は、法華経を根本經典とする法華教学（天台教学と日蓮教学）において、その意義が化導論や顕本論として盛んに議論されてきた。

この講義では、それらに関連する種々なる問題——実相論・常住論・相即論・垂迹論・教主論・教判論・種脱論などを順番に取り上げて、できるだけわかりやすく説明していきたいと思っている。

第1回目は、法華経に説かれる久遠成道論が、釈尊一代の化導を教判として整理する際にどのように扱われたか。光宅寺法雲、浄影寺慧遠、天台大師、嘉祥大師、日蓮聖人などの説を取り上げながら一緒に考えてみたい。

【講師略歴】

花野充道（はなの じゅうどう）：1950 年京都府生まれ。早稲田大学大学院文学部東洋哲学専攻博士課程修了。博士（文学）。法華仏教研究会主宰。『法華仏教研究』編集長。法華コモンズ仏教学林教学委員。単著に『天台本覚思想と日蓮教学』（山喜房仏書林、2010年）、単編著に『シリーズ日蓮第1巻・法華経と日蓮』（春秋社、2014年）、『シリーズ日蓮第2巻・日蓮の思想とその展開』（春秋社、2014年）、『シリーズ日蓮第3巻・日蓮教団の成立と展開』（春秋社、2015年）、『花野充道博士古稀記念論文集—仏教思想の展開・日蓮仏教とその展開』（山喜房仏書林、2020年）。他、論文多数。

第3回 八品門流門祖日隆の教団成立について 講師：小西日遼 先生

【日 時】 2026年 6月13日（土） 午後3時30分～5時30分

【講義概要】

現在日蓮聖人門下の勝劣派に属する法華宗（本門流）は、八品門流とも称され、千葉県茂原市の鷺山寺・静岡県沼津市の光長寺・京都府京都市の本能寺・兵庫県尼崎市の本興寺の四大本山で宗門を構成しているが、門祖は本能寺・本興寺開山の日隆である。日像によって京都に成立した妙顕寺（後に妙本寺）が室町時代、日霽の代に弟子間の対立によって分流を生じたことは知られているが、日隆も妙本寺より分流し

た一人である。

日隆は、至徳2年(1385)足利氏の一族である越中国桃井家に生まれ、出家し後に上洛し妙本寺に入寺したが、そこには伯叔父の日存・日道の両名があり、やがて3名で教学の研鑽に励んだという。まず宗祖日蓮聖人の教えを知る為に遺文の蒐集を始めると共に、当時門下の教学研究では本迹勝劣義が勢いを得始めており、3名も応永17年(1410)頃に越後本成寺の日陣を訪ねて遺文を拝見し、勝劣義を聴聞した。

この中で応永22年(1415)京都に本應寺を、応永27年(1420)尼崎に本興寺を建立している。

日隆は教学の研鑽に没頭し、三千余帖と称される大部の著作を残した一方で近隣地さらには遠隔地への布教をおこなったが、特記すべき特徴として、水上交通の利用がある。まず拠点となった本能寺・本興寺の位置であるが、本能寺は布教の拠点として都に所在し、本興寺は京都より淀川等の河川を下って大阪湾への出口の尼崎に位置し、東に出れば堺、西に向かえば兵庫・牛窓・宇多津・尾道等の要港が連なっている。そして堺(顕本寺)・兵庫(久遠寺)・牛窓(本蓮寺)・宇多津(本妙寺)・尾道(妙宣寺)と日隆有縁の寺院が建立され、さらに各港には海運の業務を統括する問丸が存在したことから、問丸を管理する富裕層、所謂有徳人が居て日隆の布教活動を外護したものと考えられる。

日隆には多数の僧俗信徒の存在が考えられるが、彼等を統率する為に法度が制定された。法度は当時の他門流にも存在するが、自己の門流を護持する為に他門流を否定した厳しい条文である。さらに門流存続の為に後進者の養成にも力を尽くし、従前よりの教学書の著作と共に、文安4年(1447)頃には教場としての勸学院が存在していた。そして関東方面からの他門流の修学生が来山していたとの史料が残存している。

日隆は宝徳2年(1450)本能寺を日信に、享徳元年(1452)本興寺を日登に譲ったが、80歳で入滅するまではさらに教義書の著述と後進の指導に当たったようであり、教義書は現在本興寺に385巻格護されている。

法華宗(本門流)の四大本山が異なる建立事情にも関わらず同一宗門を形成しているのは、日隆の教学に傾倒した先師達の「本門八品上行所伝本因下種の南無妙法蓮華経を唱える信仰」が伝承されたためである。

【講師略歴】

小西日遼(こにし にちじょう): 1942年生まれ。関西学院大学大学院文学研究科博士課程満期退学。文学修士。大本山本興寺門徒。元 法華宗興隆学林専門学校学林長。法華宗教学研究所名誉所員。著作として『日隆聖人略伝』(東方出版 昭和60年)。大本山本興寺貫首として『本興寺文書』(既刊8巻)の編纂を主導。

第4回 日蓮の世界認識とその意義

講師: 丹治正弘 先生

【日 時】 2026年 7月4日(土) 午後3時30分~5時30分

【講義概要】

日蓮が今日でいうところの世界について認識するにあたっては、主に(1)規範としての宗教、(2)現世の内在化、(3)世界という視座、の3つを回路としていたと整理できよう。(1)については贅言を要しないところであり、教学・宗学上の解釈と深く関わることから措く。(2)は、自説を社会的に訴求するという目的実現のためには、単に宗教的主張を展開するばかりではなく、社会一般の価値をも主体的に包摂し、活用したということである。その端的な事例として、鎌倉幕府法、鎌倉時代のジェンダーな

どが挙げられる。(3)は、佐渡流罪以降における「一闇浮提」の語の多用からもうかがえるように、日本一国の範囲を超えた高次の認識を思考の基盤としたことである。とくに(3)によって、①中世日本に一般的であった三国世界観のパラダイムを超克し、日本人の世界観の転換をもたらしたこと、②日本および日本の政治的スキームと為政者を相対化したこと、③本邦成立の宗教として初めて海外宣教の構想を示したこと等の歴史的意義は大きい。

【講師略歴】

丹治正弘(たんじ まさひろ): 1961年東京生まれ。早稲田大学第一文学部史学科卒業。放送大学大学院文化科学研究科修士課程・博士後期課程修了。博士(学術)。放送大学大学院歴史研究会副会長。全国通訳案内士(英語)。右筆資料調査会代表。著書に『日蓮と世界認識』(同成社、2022年)など。近年の論文に「日蓮と鎌倉幕府法」(『佛教史研究』61号、2023年)、「日蓮と日蓮主義」(『大倉山論集』70輯、2024年)、「日蓮のユートピア観と宮沢賢治」(『放送大学日本史学論叢』12号、2025年)、「日蓮とジェンダー認識」(『日本宗教文化史研究』29巻2号、2025年)など。

第5回 日蓮・鎌倉・朝廷

講師: 石附敏幸 先生

【日 時】 2026年 8月29日(土) 午後3時30分~5時30分

【講義概要】

日蓮とは何か?日蓮仏教とは何か?それを探求するために教理面からの膨大な研究が提示され蓄積されてきたことは言うまでもない。しかし日蓮仏教の探求には教理研究という枠に収まりきれない、倫理観・国家観・政治思想といった面からの問題が横たわっている。本講は、(1) 関東出身者たる日蓮の思考・行動に伏在する「エース」の探求、(2) 鎌倉武家社会における日蓮の活動や幕府権力との関わり方の探求、(3) 日蓮の朝廷(天皇・院)への志向についての検証、という主に3つの視点から、日蓮仏教の特質について私見を述べていくものである。いずれも近年の歴史学の研究成果を踏まえ、また厳密な史料読解に基づいたアプローチで臨んでいきたい。

【講師略歴】

石附敏幸(いしづき としゆき): 1960年神奈川県生まれ。早稲田大学理工学部物理学科卒。同大学院文学研究科(日本史学)博士前期課程修了。開成高等学校教諭。中高生に日本史を教える傍ら南都興福寺や日蓮宗を中心に日本中世の仏教史を研究。論文:「興福寺大乗院の雜務職について」(『鎌倉遺文研究』22号)、「応和宗論の再検討」(新川登亀男編『日本古代史の方法と意義』)、「日蓮と鎌倉幕府」(『法華仏教研究』21号)、「日蓮と宗義天奏」(『興風』30号)、「日蓮と法華講会」(花野充道博士古稀記念論文集『日蓮仏教とその展開』)など。

第6回 現代思想としての日蓮ー上原専祿の日蓮論ー 講師: 澄澤光紀 先生

【日 時】 2026年 9月5日(土) 午後3時30分~5時30分

【講義概要】

大学紛争を中心に世界的な反体制運動が広がった1960年代後半、上原專祿は日蓮認識をめぐって二つの重要な視座を打ち出した。一つは、2回の岩波市民講座で示された世界史から日蓮を見る／日蓮から世界史を見るという「日蓮認識の世界史学的方法」であり、「世界史↔日蓮」の往還的な視座である。もう一つは、死者と生者の共存・共生・共闘を打ち出した著書『死者・生者—日蓮認識への発想と視点』である。この二つの視座は一つとなり、「全死者・全生者の共存・共生・共闘の世界史像形成」への構想と、「日蓮の分身」にまで私自身を鍛え上げる」とする誓願となっていました。

この上原專祿が提示した「世界史↔日蓮」「死者・生者」「日蓮の分身化」は、激動する世界に対応していく動態的な日蓮思想の大きな可能性を示している。今再び百年以上前の戦前に戻ったかのような世界情勢を迎えて、現代に活きる日蓮思想のあり方を上原專祿の日蓮論を再検討することで考えていきたい。

【講師略歴】

澁澤光紀（しぶさわ こうき）：1975年東京都生まれ。早稲田大学社会科学部中退。日蓮宗善龍寺住職、法華コモンズ仏教学林事務局長、福神研究所事務局、JKS47事務局。編集者として『立正安國論をいかに読むか』（東京都西部教化センター刊）、論考に「宗教と科学について」、「高佐日煌の教学（一）（二）」（以上『法華仏教研究』4号、14号、16号）、「日蓮の摂折論とその展開」、「他者と日蓮認識—上原專祿を中心として」（『シリーズ日蓮』第2巻、第5巻）など。

法華コモンズ仏教学林 2026年度 前期 連続講座 全6回 対面&実況

「『法華経』『法華文句』講義」

講師：菅野 博史 先生

【講義概要】

今年度の前期も、『法華経』『法華文句』の講義を継続します。『法華文句』は『法華経』の隨文釈義の注釈書ですので、「注釈書読みの経典知らず」にならないためには、『法華文句』を読むときには、常に『法華経』の本文を読まなければなりません。現在、『法華文句』の本文を地道に読む機会はほとんどないと思われますので、この講義では、『法華文句』の本文をすべて読んでいきます。もちろん同時に『法華経』も読んでいきます。受講生のご希望がある限り、地道に続けていきたいと思っています。今期は巻第七上の「授記品」の隨文釈義の部分から学習していきます。

★教科書『法華文句』Ⅲ（第三文明社、各冊2,530円）※コモンズ割引価格2,000円（受付にて）

★『法華経』はプリントを配布します

【講師略歴】

菅野博史（かんの ひろし）：1952年福島県生まれ。1976年東京大学文学部印度哲学印度文学科卒業。1984年東京大学大学院博士課程（印度哲学）単位取得退学。1994年文学博士（東京大学）。現在、創価大学大学院教授、（公財）東洋哲学研究所副所長。専門は、仏教学、中国仏教思想史。著書に『一念三

千とは何か—『摩訶止観』正修止観章一』(第三文明社)、『法華經入門』(岩波書店)、『中国法華思想の研究』(春秋社)、『南北朝・隋代の中国仏教思想研究』『法華經一永遠の菩薩道一』(大蔵出版)、『中国仏教の經典解釈と思想研究』(法藏館)など多数。訳書に、『法華玄義』上・中・下、『法華文句』(I)～(IV)、『摩訶止観』(I)・(II) (以上、第三文明社)、『現代語訳 法華玄義』上・下 (東洋哲学研究所)、『現代語訳 法華玄義釈籤』上・中・下一・下二 (松森秀幸と共に訳、東洋哲学研究所) など多数。

【講義日】 全6回、時間 (原則・最終月曜日) : 午後6時30分～8時30分

第1回 (第95講) 4月27日

第4回 (第98講) 7月27日

第2回 (第96講) 5月25日

第5回 (第99講) 8月24日

第3回 (第97講) 6月29日

第6回 (第100講) 9月28日

【会場】 新宿 常円寺 祖師堂 地階ホール

【受講料】 1期6回分 12,000円 ※当日1回の受講料は2,000円

「『摩訶止観』講義」

対面&実況

福神研究所主催 講師 菅野 博史 先生 ※『文句』講義と同日の午後3時半より

●テキストについて

○基本テキスト:『摩訶止観』上下二冊 (岩波文庫)

○参考図書:菅野 博史 著『一念三千とは何か—『摩訶止観』正修止観章一』第三文明社

※その他、必要な参考資料やレジュメはこちらで用意して配布いたします

●開催日時:「『法華經』『法華文句』講義」日と同日の、午後3時30分～5時30分

第1回 (第111講) 4月27日

第4回 (第114講) 7月27日

第2回 (第112講) 5月25日

第5回 (第115講) 8月24日

第3回 (第113講) 6月29日

第6回 (第116講) 9月28日

●会場:新宿 常円寺 祖師堂 地階ホール

●受講料:1回 2,000円 (対面もオンラインも同額です、受講料の納入は毎回ごととなります)

※「対面は当日払い」予約が不要。／「オンライン」は予約が必要。

●オンライン(Zoom)実況の予約と受講について

①メールでオンライン受講の申込み (氏名・連絡先) をお送りください⇒ koueizan@zenryu-ji.jp

②折り返し「『摩訶止観』講義の告知」欄のURLをお知らせしますので、Peatix からお申込み・受講料の納入をお願いいたします。お申し込み後は、毎月の開催案内をメールにて送ります。

主催:福神研究所 静岡県富士市今泉1-1-1 本國寺内 FAX:0545-52-009

受講の申込について

受講申込みの方は、この頁をコピーして《申込欄》に御記入頂きまして、下記の「**FAX 番号**」にご送信ください。
また、当学林の「**ブログ**」の受講申込欄からのお申込みや、「**メール**」でのお申込みも受付けております。
受講の申込みが届きましたら、「受講手続き書類」をお送りいたします。その手続きに従って「受講料」をお振込下さい。お振込を確認しましたら、「受講の手引き」そして領収書をお送りします。なお、受講者が極端に少ない場合は開講を見合わせる場合もございますので、ご了承下さい。

メールアドレス ⇒ **hokkecommons@gmail.com**

FAX 番号 ⇒ **042-627-7227** / **ブログ** ⇒ **<https://hokke-commons.jp>**

.....《申込欄》.....

《受講希望の講座の□をチェックして下さい（いくつでも結構です）

- 一日集中講座「菩提と覚—仏教における覚醒の概念の歴史—」全1回 講師：大竹 晋
- 一日集中講座「新・学問のすすめ 研究者失格！—『見るなの禁』を見た男—」全1回 講師：磯前順一
- 一日集中講座「本覚思想の研究史と批判仏教論争」全1回 講師：石井公成
- 「法華仏教講座」（通し受講 6回分）※ 個別の受講は下記をチェック
 - 第1回講師：上杉清文 / 第2回講師：花野充道 / 第3回講師：小西日遼
 - 第4回講師：丹治正弘 / 第5回講師：石附敏幸 / 第6回講師：滝澤光紀
- 「『法華経』『法華文句』講義」（6回） 講師：菅野博史

上記、チェックを入れた講座の受講申込みをいたします

○氏名 _____ 男・女 _____ 才 _____
○住所 〒 _____

○電話 _____ Fax (mail) _____

2026(令和8)年 2月16日 発行 法華コモンズ仏教学林 事務局

192-0051 八王子市元本郷町1-1-9 善龍寺内 FAX 042-627-7227